

日本のサイエンスフェスティバル研究

鹿志村 美希

サイエンスフェスティバルは 1989 年に世界で初めてエジンバラで開催され、日本では 1992 年の「青少年のための科学の祭典」というサイエンスフェスティバルが開催されたのが初である。以降、サイエンスフェスティバルは全国各地に広がり、開催数が増加している。

一方、科学技術離れという語は 1990 年頃から新聞に登場している。科学技術離れの傾向に対する危機感が高まってきたことを背景として、国民、とくに若者が科学技術に触れる機会の重要性が認識されるようになった。最近、「サイエンスフェスティバル」や「科学フェスティバル」という名称で科学に関するイベントが開催されるようになってきたのは、それとの関連であるとの指摘もある。

しかし、サイエンスフェスティバルがどのようなものであるのかが明らかになっていないとは考えにくい。各々のサイエンスフェスティバルの開催報告や体験記は数多くあるが、サイエンスフェスティバルの総体的な調査研究は、これまでにはない。

そこで本研究では、日本のサイエンスフェスティバルを総体的に調査し、サイエンスフェスティバルの実像を明らかにすることを目的とする。

以下の手順で調査を行った。

日本のサイエンスフェスティバルを調べるため、google で「サイエンス」またはそれに準ずる語と「フェスティバル」またはそれに準ずる語を組み合わせて検索した。

で検索されたサイエンスフェスティバルの公式サイトを特定するため、検索されたサイエンスフェスティバルの名称を再び google で検索した。

特定された公式サイトに記載されている情報をすべて収集した。

その結果、収集された情報の種類は 67 になった。公式サイトに記載率が 80% 以上の情報の種類は「サイエンスフェスティバル名」(100%)、「URL」(100%)、「開催日時」(95%)、「コピーライト」(83%)、「会場」(82%)であった。これらの情報は、公式サイトが運営者が公式サイト閲覧者に対して伝えたい情報であると考えられる。一方、記載率が 2% 以下の情報の種類は「出展審査」、「企画募集説明会」、「企画準備説明会」、「メールマガジン」、「バナー」であった。これらの情報は、公式サイトが運営者が閲覧者に対してぜひ伝えたい情報とは考えにくい。項目ごとに記載率をみると、67 の情報の種類のうち、39 の情報の種類の記載率が 10% 以下だった。情報の種類が数多くあるのに対し、58% の情報の種類の記載率が 10% 以下であることから、サイエンスフェスティバルに関わる情報の多様性がうかがえる。

(指導教員 三波 千穂美)